

# わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

56期(2002/平成14年)

## かけがえのない時間



会員 手打 寛規 (56期)

私は司法修習56期、弁護士登録23年目になる。昨年、延期が続いた20周年行事がやっと開催され、久しぶりに多くの仲間と再会し楽しい時間を過ごした。あらためて修習時代は自分の宝物だったと思う。あの楽しかった時を再度振り返ってみたいと思う。

### 1 前期修習

当時の前期修習には球技大会等の行事も多く、クラスでお揃いのTシャツを作って参加した。在学中に司法試験に合格した者もいれば、社会人経験者もいて、年齢も経歴も様々だったが、不思議と一体感があって非常に仲が良かった。前期修習はクラスの皆で騒いでいた記憶しかない。他方で、前期修習で驚いたのは、同期が皆、能力的にも、人間的にも素晴らしい者達ばかりだということだ。楽しい時間を過ごしつつも、プレッシャーを感じていた部分がないわけではない。実務に出たらどうやってこんな優秀な奴らと渡り合っていけばいいのか、そんなことを考えていた時に刑弁教官から貴重な一言。「誰かが1時間でできるものを、お前は何時間もかければいいのか。そうすれば、もっといい仕事ができるだろう。お前なりにやればいいんだよ」。自分なりに努力すればいいのだと吹っ切れ、気持ちが軽くなった。よく飲み、よく遊び、よく語り、そんなこんなでアツという間の前期修習3か月は終わっていった。

### 2 実務修習

実務修習は札幌。私は、検察、刑裁、弁護、民裁の順だった。実務修習はどれも印象深い、特に印象深いのが弁護修習。指導担当は上野八郎弁護士。北海道大学山岳部出身で豪快な方だった。最も印象に残っているのが修習2日目、仕事を切り上げて自宅に來いと仰る。何か美味しいものでも？と期待してご自宅に伺うと、友人から頂いたと冷蔵庫（ご自宅に蔵のような冷蔵庫があるのである！）に吊るされた鹿の足を見せられた。これからこの足を捌いてアキレス腱を取り出し

料理の材料にするという。それから2時間、ひたすら鹿の足と格闘し、捌いた鹿のアキレス腱を持ってすすきのへ。他にも別荘に連れて行っていただき、誰もいない雪山をシールを貼ったスキーで登り、スキーで降りてくるという雪山スキーの手ほどきをしていただくなど、本当に色々な経験をさせていただいた。弁護士とは何とも豪快かつ豊かな人生を送るのだろうと思った。上野弁護士には毎晩ご一緒させていただき、まさに一日中、弁護士業のこと、人生のこと、色々なお話をさせていただいた。その全てが人生の糧となり、今の自分があると思う。

### 3 北海道旅行！

札幌修習の仲間達も非常に仲が良かった。当時は皆、何かに取りつかれたように北海道中を旅して回っていた。私も夏に北海道大雪山を縦走したのを皮切りに週末は北海道中の秘境や温泉を巡る旅に明け暮れた。そして、冬はスキーである。一番の思い出は大雪山旭岳での山スキー。修習生15名程で旭岳に繰り出しロープウェイで中腹へ、そこからパウダースノーの中を皆で滑り降りるのである。夜は宴会をしたり、ドラマ「北の国から」の名場面「吹上温泉」のロケ地巡りをしに山の中を探索した。まさに、北海道の大地を堪能した。本当に楽しい思い出ばかりである。

### 4 後期修習

実務修習の最後の頃、お世話になっていた裁判官に「早く実務に出たい」と話したところ「お前みたいな半人前が実務に出たら人の迷惑になる。しっかり勉強しろ！」と叱っていただいた。それはそのとおりだと思ひ、特に後期修習はまじめに勉強していたと思う。時にやさしく、時に厳しく、修習生活を通じて色々な方にご指導いただき、弁護士になれたのだと思う。

本紙では紹介しきれない沢山の修習時代の思い出がある。その全てに感謝を申し上げて、筆を置きたい。